

写

受理番号	陳情第8号
受理年月日	令和8年8月10日

陳 情 書

令和8年8月10日

子どもたちの今、将来、町の未来を守るために現行新庁舎建設事業の見直しを求める陳情

二宮町議会議長
前田 憲一郎 様

陳情者 二宮町二宮 1931-3

まちづくり工房「しお風」代表 神保智子



【陳情趣旨】

7月24日に開催された令和8年度第4回臨時議会終了後の議会全員協議会において、行政から総事業費が新庁舎建設の基本設計時に公表された35億円から5億円増額し、来年には40億円を見込み、まだ財源裏づけは検討していないと説明がありました。

良い町を作るのに教育は非常に重要です。しかし、新庁舎建設を学校問題より優先させ、トイレの修繕、支障がある体育館・老朽化した教育施設を放置したまま劣悪な教育環境を生じさせてしまいました。

新庁舎建設をするために教育予算を削り、「子どもまんなか」と言いながら、子どもたちに劣悪な教育環境で我慢させ、多額の借金を背負わさせ、責任を押し付けることになります。

私は吾妻山や梅澤海岸など恵まれた自然の中で遊んだ楽しい体験、父や叔父らが話してくれた吾妻神社や園芸試験場そして東京大学二宮果樹園などの郷土の歴史、季節と共に移り変わる草木の美しさ、見上げれば広がる青空の中で学び、私の資質を見出してくださった先生たちの出会い、近所の人たちに見守られながら、育ちました。このようなことで、二宮を愛し、「しお風」を発行しながらまちづくり活動をする今の私があります。

だからこそ、今度は大人になった私たちが、この町の子どもたちに最高の「今」を手渡したい。次世代を担う子どもたちが二宮で育ってよかったと胸を張れる、素敵なお話を紡げるように、学び遊ぶ環境の更新や改善も、自治体としてできることは、真っ先にやって当たり前だと考えています。

このままでは、私たちの住む二宮町は、未来を切り拓くための財政力に続き、子どもたちという最も慈しむべき存在を、常に一番大切にしていこうという、地域の「誇り」まで失うことになります。

「しお風」の夢は、「住民が主役の共育のまちづくり」を具現化することです。住民が持っている町を愛する熱意、資質、資源を活かし、関わり合うことでお互いが成長し、その輝きが町を輝かせ、自治が成長するまちづくりです。この共育のまちづくりには学校教育はもとより町の教育力が重要となります。

また、今の庁舎では各部局と災害対策本部を情報回線でつなげられず、部長は、情報得るために一旦部局に戻る必要があり、災害対策本部を開設し続けることはできません。ですから、災害対策として新庁舎整備は必要なのはわかります。

しかし、現行のままでは建設経費が掛りすぎ、抜本的な災害対策経費を捻出できません。

たとえば、治水のための調整池の整備や備蓄の充実、そして避難所となる体育館へのエアコン設置など。庁舎整備基金は災害対策基金の10倍です。

7月28日に発生した熊本地震でも過酷な暑さと水不足、避難生活、救援人員の不足が大きな問題になっています。二宮町も参集人員不足で被災時運営の困難さ、複合災害を検討していない、防災しやすい地区区分ではない、被災時の避難所と学校教育との役割分担が不明確など問題が山積みです。

昨年9月にした陳情は採択されましたが、陳情項目の①豪雨災害を総括する災害発生要因、防災課題、対策、将来への取り組みなどを盛り込んだ報告書の作成と住民への説明、②新庁舎建設に伴う県指定天然記念物等を活用した植物、土壌、治水、歴史を学ぶ場の創出、③町制施

行 100 年を機にした二宮町の地形、地質、自然、歴史、防災等を学ぶローカルナレッジ(郷土学習)の醸成などは検討さへもされた気配がありません。

このようなことから、こどもたちの今、将来、町の未来を守るために、次の項目からの現行新庁舎建設事業の見直しを陳情いたします。

【陳情項目】

- 1 子どもたちの教育環境やローカルナレッジ(郷土学習)を充実させる予算配分ができる二宮町の財政規模に見合った現行新庁舎建設事業の見直し
- 2 二宮町の豪雨災害や近年の大災害を配慮した防災体制の強化となる本来の目的にかなった現行新庁舎建設事業の見直し

以 上